

総代会制度



信用金庫は、株式会社の銀行とは異なり会員同士の「相互信頼」と「互恵」の精神を基本理念とする協同組織金融機関です。会員は、出資口数に関係なく一人一票の議決権を持ち、総会を通じて当金庫の経営に参加することになります。

しかし、実際は会員数が大変多いことから、全ての会員が参加する総会の開催は不可能です。そこで、当金庫では会員の総意を代表する総代を地区ごとに選考し、総代による総代会制度を採用しております。

総代会は、決算事項の承認、定款変更、理事・監事・総代選考委員の選任等の重要事項を決議する当金庫の最高意思決定機関です。

したがって、総代会は、総会と同様に会員一人ひとりの意見が当金庫の経営に反映されますよう、会員の中から適正な手続きを経て選任された総代により運営されております。

当金庫では、総代会に限定することなく、日常の業務を通じて会員の皆様とのコミュニケーションを大切にし、様々な経営改善に取り組んでおります。なお、総代会の運営に関するご意見やご要望につきましては、お近くの営業店までお寄せください。

総代の任期・定数

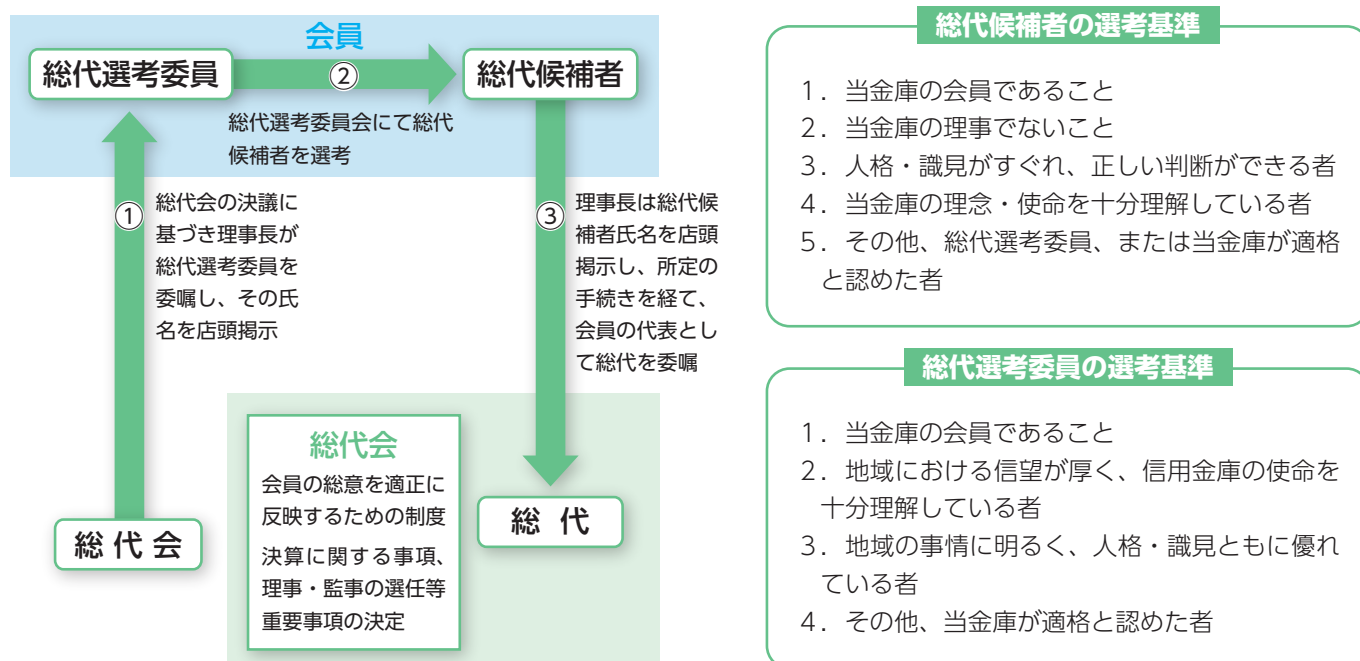
1. 総代の任期は3年です。
2. 総代の定年は75歳としています。ただし、任期中に定年を迎えた場合、任期満了をもって定年とします。
3. 総代の定数は120人以上150人以内で、会員数に応じて選任区域ごとに定められております。
4. 令和7年6月末現在の総代数は141名で会員数は75,782名です。

総代の選任方法

総代は、会員の代表として、会員の総意を当金庫の経営に反映させる重要な役割を担っております。当金庫の総代の選考は「総代選考規程」に基づいて次の3つの手続きを経て選任されます。

1. 会員の中から総代選考委員を選任する。
2. 総代選考委員が総代候補者を選考する。
3. 総代候補者を会員が信認する。

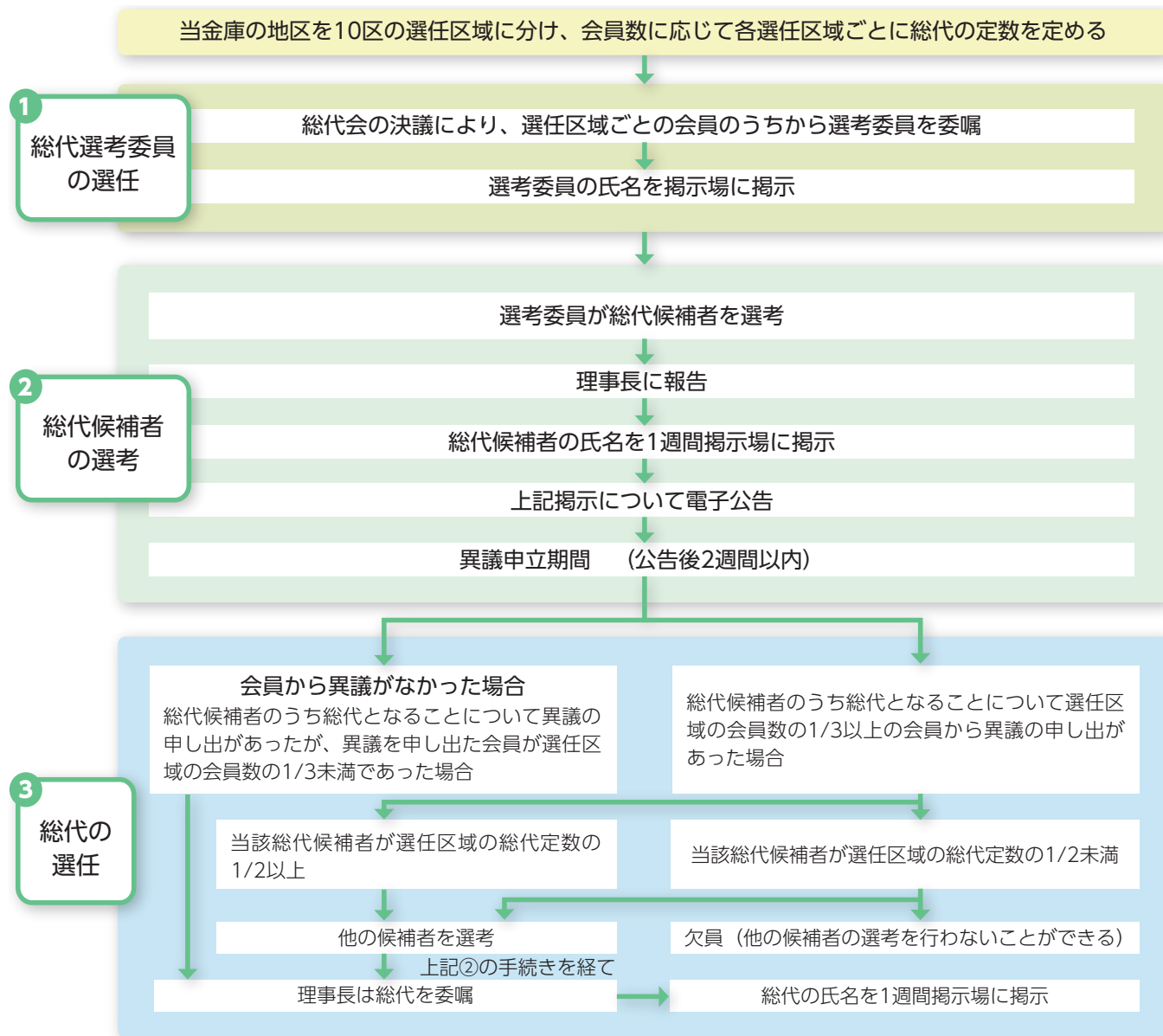
総代会の仕組み



総代会制度

総代会制度

総代が選任されるまでの手続き



第102回通常総代会の報告・決議事項

令和7年6月18日に開催された第102回通常総代会において、次の事項が付議され原案どおり承認されました。

□報告事項

第102期 (令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)
業務報告、貸借対照表及び損益計算書の報告の件

□決議事項

第1号議案 第102期 (令和6年度) 剰余金処分案承認の件
第2号議案 総代候補者選考委員の選任の件
第3号議案 出資会員除名の件





総代の氏名等

選任区域	人数	氏名
第1区	25名	植草 裕一⑥、加賀 一明④、鈴木 吉晴⑥、関根 洋一⑥、塙 良太郎④、福井 晶一④、望月 泰伸⑥、内山 義衛⑥、水野 浩利⑤、石川 進一⑤、浦田 直門②、今井 和泉⑥、鈴木 敬二⑥、花澤 直輝③、藤代 忠実③、伊藤 和夫②、高橋 英之③、櫻木 英一郎④、新城 早人⑤、秋葉 健夫⑥、荒川 幸②、戸村 聡⑤、本橋 英樹⑤、新留 宏範①、丹羽 誠①
第2区	13名	大越 一朋⑥、須藤 英文⑦、川島 良人①、黒川 恵史④、黒川 高男⑥、中根 亮一②、佐藤 肇③、佐藤 宣仁②、佐藤 康弘②、伊藤 政義⑤、篠崎 正二②、牧野 準⑨、迎 一彦①
第3区	9名	黒子 恭伸⑨、森元 一隆③、三橋 治久⑥、池田 潔①、栗原 健一①、栗原 清彦③、林 留夫②、岡本 信夫①、鈴木 良夫⑤
第4区	19名	大矢 仁③、角谷 太一①、宮寄 勝己⑥、守屋 謙一郎④、山崎 克哉④、原地 利忠⑨、深山 康彦⑥、宮寺 由貴③、秋元 保次①、上村 輝男⑤、千葉 祐巨③、夏井 宏一郎③、始関 太郎①、西村 直樹①、長田 博正①、原 藤一⑥、関野 誠治②、鶴山 孝行②、須田 和道②
第5区	8名	浜名 洋一③、茂木 和仁③、松本 央②、露崎 利行⑤、前田 慎太郎②、蛭田 憲広②、進藤 通孝⑦、矢田 高裕②
第6区	15名	宮崎 際①、折戸 豊輝①、石川 純一③、元吉 和江③、木内 定雄⑥、鬼頭 俊裕①、石井 知明③、鈴木 竹男⑥、山村 兼二⑨、渡部 正和①、三枝 正和③、多田 公俊④、齋藤 治男③、竹本 秀幸③、青木 和義③
第7区	11名	齋藤 良一⑦、苅込 昌俊①、野村 進一⑥、秋元 直人⑥、磯部 友昭①、宮 邦洋③、津田 哲也①、梶尾 憲一郎③、鈴木 正行③、松崎 哲也①、安田 学①
第8区	8名	榎本 守男⑨、岡田 良弘⑥、高橋 裕之①、藤江 貞晴③、藤野 健次郎③、石綿 礼敏②、笠原 文善②、森田 勝則④
第9区	21名	山本 豊一②、近藤 正之②、倉田 知広③、田中 健一②、石橋 幸太郎①、石渡 孝春④、長谷川 吉昭⑧、平山 秀樹⑤、宮崎 廣一郎④、宮村 亮祐①、藤崎 秀幸②、市沢 裕明②、石戸 謙一⑤、森田 修司①、中村 眞一⑨、真仲 廣明⑨、岡山 一夫③、香取 信靖②、横田 浩昌③、菊川 一平②、平野 伸一①
第10区	12名	荒木 大輔①、高木 秀夫⑤、蓮見 高円①、生形 健一①、福田 昌広⑥、眞行寺 純一①、小川 保②、榎原 吉明①、地引 聡一①、渡邊 大介①、内田 博道⑥、藤崎 祥弘⑨

氏名後の数字は総代就任回数（平成14年1月合併以降）

（令和7年6月末現在／敬称略・順不同）

選任区域

（敬称略）（順不同）

選任区域	地区	総代候補者選考委員
第1区	千葉市＜中央区、若葉区、緑区＞	望月 泰伸 水野 浩利 鈴木 敬二
第2区	千葉市＜稲毛区、美浜区＞ 四街道市	須藤 英文 黒川 高男 佐藤 肇
第3区	千葉市＜花見川区＞ 習志野市、船橋市、八千代市、市川市、鎌ヶ谷市、浦安市	黒子 恭伸 森元 一隆 鈴木 良夫
第4区	市原市、夷隅郡大多喜町	山崎 克哉 上村 輝男 夏井 宏一郎
第5区	袖ヶ浦市	露崎 利行 進藤 通孝 茂木 和仁
第6区	木更津市	山村 兼二 多田 公俊 石川 純一
第7区	君津市	野村 進一 秋元 直人 梶尾 憲一郎
第8区	富津市、館山市、鴨川市、南房総市、安房郡	榎本 守男 岡田 良弘 藤江 貞晴
第9区	成田市、佐倉市、白井市、松戸市、流山市、柏市、我孫子市、印西市、香取市（旧佐原市に限る）、印旛郡、茨城県取手市（旧取手市に限る）、稲敷郡河内町、北相馬郡	真仲 廣明 平山 秀樹 倉田 知広
第10区	八街市、富里市、東金市、茂原市、山武市、旭市（旧香取郡干潟町に限る）、大網白里市、香取市、山武郡（横芝光町は旧横芝町に限る）、長生郡、香取郡、茨城県稲敷市（旧稲敷郡東町に限る）	内田 博道 高木 秀夫 藤崎 祥弘

総代の属性別構成比

職業別	法人役員95.0%、個人事業主2.8%、個人2.1%
年代別	70歳代26.9%、60歳代36.8%、50歳代25.5%、40歳代9.9%、30歳代0.7%
業種別	鉱業、採石業、砂利採取業0.7%、建設業24.8%、製造業7.0%、運輸業、郵便業3.5%、卸売業、小売業19.8%、金融業、保険業1.4%、不動産業、物品賃貸業14.8%、学術研究、専門・技術サービス業2.1%、宿泊業、飲食サービス業2.8%、生活関連サービス業、娯楽業2.8%、教育、学習支援業4.2%、医療、福祉0.7%、複合サービス事業7.8%、サービス業3.5%、公務0.7%、分類不能の産業2.8%

※業種別の構成比は、日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。